

祝 北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産登録へ





成熟社会 1万年以上継続



青森市の三内丸山遺跡で発掘された陶皮で編み立てられたボジョレー。

農耕以前 豊かな定住生活



できる。

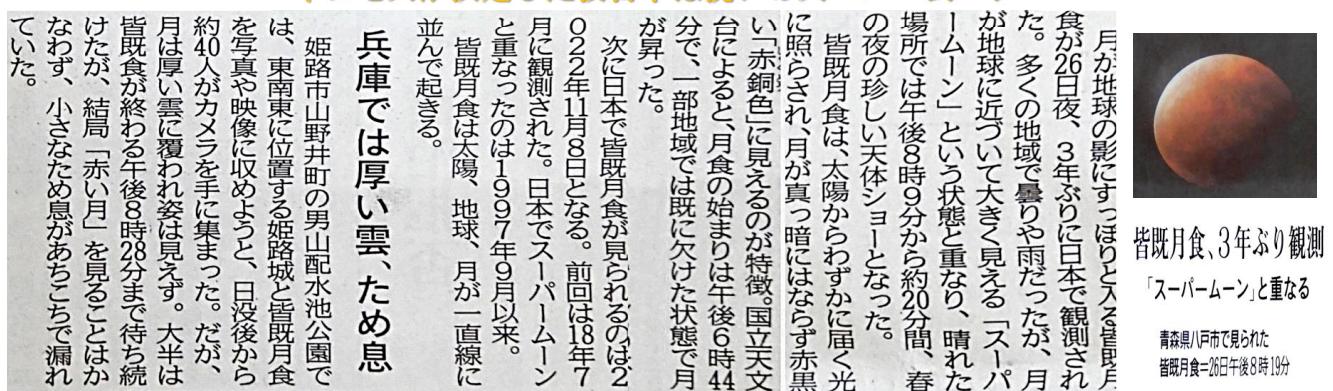
「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産へ

神戸新聞



2021年(令和3年)5月26日(水曜日) 北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産へ

イコモスが決定した夜日本は祝いのスーパームーン



月が地球の影にすっぽりと入る皆既月食が26日夜、3年ぶりに日本で観測された。多くの地域で曇りや雨だったが、月が地球に近づいて大きく見える「スーパームーン」という状態と重なり、晴れた場所では午後8時9分から約20分間、春の夜の珍しい天体ショーとなつた。

皆既月食は、太陽からわずかに届く光に照らされ、月が真っ暗にはならず赤黒い「赤銅色」に見えるのが特徴。国立天文台によると、月食の始まりは午後6時44分で、一部地域では既に欠けた状態で月が昇つた。

次に日本で皆既月食が見られるのは2022年11月8日となる。前回は18年7月に観測された。日本でスーパームーンと重なったのは1997年9月以来。

皆既月食は太陽、地球、月が一直線に並んで起きる。

兵庫では厚い雲、ため息

姫路市山野井町の男山配水池公園では、東南東に位置する姫路城と皆既月食を写真や映像に收めようと、日没後から写真や映像に收めようと、日没後から40人がカメラを手に集まつた。だが、月は厚い雲に覆われ姿は見えず。大半は皆既食が終わる午後8時28分まで待ち続けたが、結局「赤い月」を見ることはかなはず、小さなため息があちこちで漏っていた。

5月28日(金曜日) 神戸新聞朝刊「正平調」はこんなコラムで世界遺産決定を祝った



2021年(令和3年)

5月28日
金曜日

正平調

人類は進歩なんかしていないーと芸術家、岡本太郎さんの語録にある。「縄文土器の凄さを見る。ラスコの壁画だつて、いまの人類にあんなもの作れるか」◆言られてみれば、縄文土器には不可思議な形のものが多いし、確かに前衛的である。岡本さんはそこに狩猟民ならではの躍動する感性を見たのだろう。その人が手がけ、大阪万博のシンボルとなつた「太陽の塔」もどこか縄文藝術の香りをまとつている◆いま再びの「縄文ブーム」を予感させるうれしいニュースが届いた。青森市の三内丸山遺跡などの「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されると、縄文人は獲物を追つてさすらつていたという◆遺跡には、定住の痕跡があつた。土器や土偶、アクセサリーも多く出土している。縄文人は獲物を追つてさすらつていたでもまれにみる豊かな文化を育んでいたらしく◆三内丸山遺跡から発見されたといふ樹皮で編まれた「ボシエット」の写真を、きのうの本紙で見た。腰にぶらさげ、クリミやクリを拾つていたのか、おしゃれな縄文人の暮らしが目に浮かんでくるようで心躍る◆縄文文化に衝撃を受けて語つた岡本さんの言葉を、まねしてつぶやいてみる。「こんな日本があったのか」

2021.5.28

皆既月食、3年ぶり観測 「スーパームーン」と重なる

青森県八戸市で見られた
皆既月食=26日午後8時19分

月が地球の影にすっぽりと入る皆既月食が26日夜、3年ぶりに日本で観測された。多くの地域で曇りや雨だったが、月が地球に近づいて大きく見える「スーパームーン」という状態と重なり、晴れた場所では午後8時9分から約20分間、春の夜の珍しい天体ショーとなつた。

皆既月食は、太陽からわずかに届く光に照らされ、月が真っ暗にはならず赤黒い「赤銅色」に見えるのが特徴。国立天文台によると、月食の始まりは午後6時44分で、一部地域では既に欠けた状態で月が昇つた。

次に日本で皆既月食が見られるのは2022年11月8日となる。前回は18年7月に観測された。日本でスーパームーンと重なったのは1997年9月以来。

皆既月食は太陽、地球、月が一直線に並んで起きる。

兵庫では厚い雲、ため息

姫路市山野井町の男山配水池公園では、東南東に位置する姫路城と皆既月食を写真や映像に收めようと、日没後から40人がカメラを手に集まつた。だが、月は厚い雲に覆われ姿は見えず。大半は皆既食が終わる午後8時28分まで待ち続けたが、結局「赤い月」を見ることはかなはず、小さなため息があちこちで漏っていた。



www.pearlmountain.com

三内丸山縄文発信の会「縄文ファイル」 4月号 2011.4.1.

東日本大震災お見舞いと北の縄文 世界遺産登録への応援メッセージ 「神戸から日本人の心のふるさとへ」

By 三内丸山縄文発信の会会員 兵庫県神戸市 Mutsu Nakanishi

東北関東大震災の未嘗有の災害に遭遇された皆様に心からお見舞い申し上げます。
かつて多いた縄文のふるさとでの大震災に驚きではあります。
縄文文化を育んだこのフィールドが、被災された様様のこころを慰め、
一日も早く元気になられますことをお祈りします。

「日本人のこころを映すストーンサークル」「歴史を知らない心やさしき縄文人」
に憑かれて10数年、縄文のフィールドに立つのが楽しみな縄文walkです。
縄文人は自然の恵みを受けながら素晴らしい自然の景色の中で縄文の文化を育んだ。

その景色を見るだけでもすばらしい。
この縄文ワールドを語るのに、私は「縄文歩り」という言葉をよく使います。
一步足を踏み入れれば、そこは素晴らしい自然の景観と心の安らぐ縄文の世界。
高台に座って、ほっと一息。周りを眺める「縄文がえり」。私一番の縄文の楽し

みです。

六本柱はどうやって引っ張ってきたのだろう? 環状配石墓と墓の道に今にも声が聞こえてきそうな土風。

ここでどんな祭りが行われたのだろうか? 葉・どんぐりの栽培と酒造りとは?
手に持った翡翠の玉のひんやりとした感触と翡翠石 そして鹿。

この遺跡走のルートは翡翠らす森を超えて、どこまで広がっているのだろう? などなど.....。

また、一般の人たちに混じって「墓の道の意味を考えている」と遺跡のジオラマをじっと眺める学者さんの姿が強く印象に残っています。

発掘された遺物・遺構を前に、活き活きと語られる「縄文の暮らしと伝承」に頭を痛かせ、頭をひねり、質問し、みんなで考えた「三内丸山縄文人の生活・縄文ワールド」。市民・訪問者の参加・体験型遺跡が 三内丸山の熱気・魅力。

そんな遺跡作りへの参画が認められての文化庁選定賞受賞。おめでとう。

世界遺産登録運動のさらなるエネルギーになるでしょう。

でも、発掘が進み、遺跡の削除・整備が進むにつれ、そんな生の歴史が開拓する機会もなくなってきました。

時遺跡や史跡展示室などが整備され、遺跡の美学も遺構や遺物の説明解説を中心。

「縄文の生活」を想い浮かべての語らいの熱気が薄らいで、「ちょっと距離が出てきたなあ」と感じています。

かつて、自分がそうであったように、眼前に広がる縄文の素晴らしいフィールドの中で、縄文人たちの生活や歴史そして不思議が繋り合え、自分とのつながりが体験できる場であってほしい。

北海道・東東北の縄文遺跡群が「心優しき縄文人」「日本のこころのふるさと縄文」を体験できる」そんな身近な故郷として世界遺産になってほしい。そんな夢を描いています。

私の住む関西では各の知れた縄文遺跡はそれほどないのですが、ここでも素晴らしい自然の景色と心安らぐ場が用意されています。関西で開催された「縄文祭」に端を興した同時の人たちのささやかな縄文勉強会が「関西に縄文の灯を!」ともう6年近く続いています。北海道・東東北の縄文の世界遺産登録が、さらに「現代の縄文開拓」へと全幅に広がることをも期待しています。

1911年3月 三内丸山縄文の会の「縄文ファイル」4月号に東日本大震災のお見舞いと日本の縄文を世界遺産にと応援メッセージを送って10年。本当にうれしい北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録決定の報。おめでとう。

ても 今また日本はコロナ禍の苦難の中にいる。

心優しき縄文人

日本の心のふるさと縄文

みんなでスクラム組んで

この難局を乗り越えましょう

◎ 2011.3.19. 三内丸山縄文の会「縄文」に 送ったメッセージ 東日本大震災お見舞いと 北の縄文 世界遺産登録応援メッセージ

■ 「神戸から日本人の心のふるさと」へ 2011.3.19.

<https://www.infokkkna.com/ironroad/prezen/201104sekaiisan.pdf>

■ 縄文の心を映すストーンサークル

<https://www.infokkkna.com/ironroad/prezen/2008jyomon/jyomonslide.htm>